



子育て通信

認定こども園ひばり保育園

福森 良子

まだまだ残暑の厳しい日が続いていますが、ずいぶん日が短くなりすずしい秋風を感じるようになってきました。昼夜の気温差が大きい季節でもあるので、健康面には十分気を付けながら、子どもたちと秋の自然を楽しんでいきたいと思います。

日常のあれこれ～両手を使う～

こんな子どもいませんか？



日常生活の中で、両手を使って道具を使う機会はたくさんあります。片手で茶碗を持ちつつもう一方の手で箸やスプーンを持って食事をしたり、片手で紙を押さえつつ、もう一方の手にえんぴつや、クレヨンを持って絵を描いたり、手で紙を持ちもう片方の手でハサミを使って紙を切ったり、、、

しかし箸やスプーンでご飯を食べる、鉛筆やクレヨンで絵を描く、はさみで紙を切るなど、道具の操作に用いる手の動きはできるけれど、もう一方の手が活動に参加していない子どもを見かけないでしょうか？また、シールを台紙からはがして貼るといった際に、一見両手を使っているようでも、じつは左右の手の役割分担がうまくできていない子どももいるかもしれません。

どうしてそうなるのでしょうか？



左右の手を単純に使うのであれば、それぞれの役割を果たすことができるが、左右別々の役割を「同時に」行うことが難しい。その理由は、協応性（からだの複数の機関や部位を同時に、適切に動かすこと）が育っていないことが考えられます。運動能力のゆっくりな子どもや、運動が苦手な子どもに見られがちです。大人は、「反対の手で押さえて」とか「両方一緒に動かさない」とか、言葉で改善を求めがちです。しかし、体が整ってなければ、実行できません。おとなが手を添えて一緒に茶碗を持ってあげたり、一緒に紙を押さえたりして成功できる方が、子どもにとって良い経験になります。その時に大人の手でこどもの手をやさしく押さえてあげると、動きが少し強調されて子どもにとっても実感しやすいでしょう。

作業療法士の ワンポイントアドバイス



両手での活動が行えていないときは、ことばをかけて促すだけではなく、おとなの手を子どもの手に添えることで、さりげなく両手を活動に参加させるとよいでしょう。

両手の役割分担をしよう。

砂場でスコップを片方の手に持ち砂をすくって、もう片方の手で持ったカップの中に砂を入れていきます。生活の中では、小さいほうきとちりとりを用意して掃除をしたりするのもいいですよ。

両手を同時に使おう！

新聞で棒を作って引き合う遊びや、ひとが新聞を広げて持ち、もう一人が新聞を折る、などの遊びがあります。生活の中ではトレーで食器や玩具を運ぶ、かごで荷物を運ぶのは、少し重いものもいいですよ。



ひばり保育園では、毎週月曜日と水曜日に園解放を行っています。
子どもに関するご相談がありましたら、お気軽にお声掛けください。

子どもとやって
みてね